

中野区教育委員会会議録

平成27年第6回臨時会

平成27年7月27日

中野区教育委員会

平成27年第6回中野区教育委員会臨時会

○日時

平成27年7月27日（月曜日）

開会 午後7時02分

閉会 午後8時46分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 田辺 裕子

教育委員会委員 渡邊 仁

教育委員会委員 田中 英一

教育委員会委員 小林 福太郎

○欠席委員

教育委員会委員 増田 明美

○出席職員

教育委員会事務局次長 奈良 浩二

教育委員会事務局副参事（子ども教育経営担当） 辻本 将紀

教育委員会事務局副参事（学校教育担当） 石濱 良行

教育委員会事務局指導室長 杉山 勇

○書記

教育委員会事務局教育委員会担当係長 金子 宏忠

教育委員会事務局教育委員会担当 高橋 綾菜

○会議録署名委員

教育委員会教育長 田辺 裕子

教育委員会委員 渡邊 仁

○傍聴者数

0人

○議題

1 協議事項

(1) 平成28年度使用教科用図書の採択について

○議事経過

午後 7 時 0 2 分開会

田辺教育長

ただいまから教育委員会第 6 回臨時会を開会いたします。

本日の会議は定足数に達しております。

本日の会議録署名委員は、渡邊委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりです。

ここでお諮りいたします。

本日の協議事項、平成 28 年度使用教科用図書の採択については、公正を確保するため、採択過程にあつては、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第 10 条第 1 項に基づき、非公開と定めておりますので、本日の教育委員会の会議においても、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書により非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定しました。

(以下、非公開)

(平成 27 年第 22 回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開)

<協議事項>

田辺教育長

それでは日程に入ります。

前回に引き続き「平成 28 年度使用教科用図書の採択について」の協議を行います。

協議の進行につきましては、前回と同様の方法により行いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

本日は美術、技術、家庭、英語及び特別支援学級で使用する一般図書の協議を行います。

それでは、美術について協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。

まず、田中委員、お願いいたします。

田中委員

私は、3 冊候補はありますけれども、開隆堂出版と光村図書出版の中でいろいろ迷いました。美術というのはなかなか美術の時間に何を学んだらいいのかというのが生徒にとっ

てわかりにくい科目ではないのかなというふうに思います。巻頭に「美術って、何だろう」という見開きのページがあるのですけれども、開隆堂出版のほうが非常に表すことの喜び、学びであるとか、感じることを、学びということで生徒にとってわかりやすい導入ではないかなと思った点が第1点です。

それから、原寸大の資料が光村図書出版と開隆堂出版にあるのですけれども、これもやはり生徒にとって実際の大きさといいますか、それを感じ取れる非常に大事な資料で、これが入っているのがとてもいいなというふうに思いました。

あともう1点、開隆堂出版と光村図書出版を比べてみると、掲載されている作品が開隆堂出版はほぼ日本のものと国外のものが同じような割合で入っていて、光村図書出版はかなり日本のものが多く入っているという意味で、グローバルな視点ということも今回の大きな選択の基準になっていると思うので、そういう意味からもバランスがいいということで私は開隆堂出版がいいかなというふうに思いました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

小林委員、お願いいたします。

小林委員

私は、この3者の中で日本文教出版を一番推したいというふうに思います。幾つか理由があるのですけれども、まず、3冊構成になっているのが日本文教出版で、これは実質的なかどうなのか様々な考え方があるのですが、やはり中学校3年間で学年進行というような意識を持たせると。確かに美術の時間が少ないけれども、少ないから2冊にまとめていいかという、私は特に音楽、美術に関してはより一層充実していくことが大事ではないかなと。特に美術の場合には資料集的な意味合いもあって、やはり紙面構成がゆったりした3冊構成のものが優れていると思います。

内容的にも見開きのものがあったり、それから日本の伝統の和紙を使った見開きで非常に日本の伝統文化を見事に伝えているという部分もありますし、全体的に選定調査委員会の報告では非常に細かいことがマイナスイメージとして受け取られているようだけれども、私は逆に時間が少ないからこそ、そういうような補完するという意味での微に入り細に入りというこうした紙面構成は非常に重要ではないかなというふうに思います。

光村図書出版の写真や色も鮮やかなのですが、その辺のところは好みもあると思います

ので、全体的なバランスからいって中野区の中学生にどの教科書をと考えたときに、やはりこの三つの中では日本文教出版が一番適しているのかなというふうに判断をいたしました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

私は三つの中では日本文教出版と開隆堂出版がいいかなというふうに思っておりました。

それぞれの教科書に特徴はあります。その中で、例えば3者ともに扱っているようなところを一つ見てみますと、ルネッサンスの絵が扱われたところで、「最後の晩餐」をみんな同じような形で取り上げています。この中で光村図書出版はルネッサンス文化の辺りの取り上げ方が小さく、見開きで使っているのが日本文教出版と開隆堂出版です。

有名な題材を使ったということで、作品がどんなふうに扱われているかということで見ると、「最後の晩餐」を見まして、やはり日本文教出版は非常に細かく、そして、どういうところにあるかと小さなところで修道院の内部も写されていて、そういう意味ではこういった一つの典型的な芸術を知識として修めるにはいいような、そういうところが見受けられました。

そういう意味では光村図書出版は、題材の捉え方が少し違うというので、私としては開隆堂出版と日本文教出版で比較をしてみました。

小林委員が言ったように3冊なのか2冊なのかということ、どちらの取扱いがいいのかということについては、資料集という考え方があれば3冊のほうがやはりいいのかなというように感じています。

まず導入の1ページ目というところで見ますと、日本文教出版はゴッホの絵が全面に出てくるんですね。これもやはり美術をやるときには非常にいいなというふうに感じました。そういう点ではちょっと違うニュアンスで開隆堂出版はアプローチをしているところがあります。

開隆堂出版でもゴッホは取り扱ってしまして、2・3の52ページで、説明その他等に関しては、開隆堂出版のほうが大きく扱っているというふうに思います。

一長一短はあるのですけれども、美術の教科書として使いやすさとか一つの題材を見て

いったときに、美術を教えるに当たってどうなのかというところを見ると、やはり説明の細かさとかポイントとか、そういうことを明確に表しているのは日本文教出版で、やはり紙面上に余裕があるがゆえにいろいろと説明も書けて、甲乙つけがたかったのですけれども、やはりきめ細かさとか一長一短はあるのですけれども、その辺りでちょっと日本文教出版がいいかなと。

日本文教出版の2・3上の50ページになるのですけれども、年表においてそれぞれの代表する絵がこうやって出ているのもちょっとおもしろいなど。技術だけではなくて美術に対する知識という意味で資料集という考え方をすると、やはり若干日本文教出版のほうが、分量が多い分充実しているように思えて、その点から日本文教出版がいいかなというふうに感じております。

田辺教育長

ありがとうございます。私からも意見を述べさせていただきます。

小林委員がおっしゃったように、私も3分冊になっているほうが、よりいろいろな作品が扱っていて余裕を持って構成ができるのではないかなというふうに思いました。特にやはり音楽もそうだったのですけれども、美術についても子どもたちが本当に生涯美術について、自分なりに触れる、そういう機会になってもらいたいと思いますし、美術を楽しむような、そういう大人になってもらいたいと思いますので、様々な角度からいろいろな作品に触れることができる日本文教出版の教科書がよろしいのではないかなというふうに思いました。

3分冊ごとに教科書にタイトルが出ていて学年進行とともに学びが深まるというような狙いも感じられますし、表現と鑑賞という2分野を意識した構成になっていたり、関連ページということで参照という項目があったり、学ぶポイントを丁寧に解説しているのも日本文教出版ではないかなというふうに思いました。

以上です。

一通り各委員のご意見を伺いましたが、全体的に日本文教出版というご意見が多数でしたので、美術については日本文教出版を採択候補としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、美術については日本文教出版を採択候補とすることに決定し

ました。

それでは、技術について協議を行います。

まず小林委員、お願いいたします。

小林委員

3者出ておりますが、全体的な内容の構成を見ますと、教育図書についてはそれぞれ技術科で取り上げなければならないものは一通り当然取り上げてはいるのですけれども、その取り上げ方、例えばガイダンス的な内容であるとか安全に関する事項であるとか、言語活動を取り上げているとか、今の教育課題に適切に対応しているという点では、教育図書はその扱いが少ないということです。したがって、東京書籍と開隆堂出版の2者がよろしいのではないかなというふうに思っています。

それぞれこの2者に関してですけれども、選定調査委員会の報告などを見てもわかるように、情報モラルという点、情報教育に関連して開隆堂出版が、非常にボリュームがあるということ。それから東京書籍に関しては指導のしやすさとか、もちろん情報リテラシーについてもしっかり明記されているわけですが、全体的なそうした教育課題をさらに見ていくと、若干開隆堂出版が勝っているのではないかなというような、そんなような考え方を持っております。

以上です。

田辺教育長

渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

私も小林委員と同じところで、3者の中では開隆堂出版と東京書籍で迷いました。

まず教科書の大きさが少し違うということで、東京書籍のほうが大きくて少し見やすい感じがあります。

最初にめくっていったときに、東京書籍は安全に対するページから導入されているというのは、いいやり方だなというふうに思っています。やはり全体的に大きく見ていると、サイズが大きい分いろいろと見やすい工夫がかなりあると思います。お手本とか物を見るという意味では若干大きくて見やすいほうがやりやすいのかなというふうに感じていました。

例えば、一つ題材にとってみて見てみますと、運動の変化の仕組み、往復運動を表している部分の説明を見ていると、東京書籍のほうが丁寧でわかりやすいのと、実際のモデル

を使つての表現があつたりして少しこういったわかりにくいものに対する配慮がよくできているのではないかなというふうに思っています。

開隆堂出版だと 96 ページ、そして東京書籍も 96 ページです。電気をつくる仕組みとか、エネルギー資源について書いてあるのですけれども、こういったところも非常に東京書籍のほうがわかりやすく、またすごくおもしろかったのは、東京書籍は、こういうことをやって一つの電気をつくるのに幾らかかっているとか、意外なところに注目点があるのが、おもしろく書いているなというふうに感じました。

ただ、単元の開始ごとに、例えば開隆堂出版の 92 ページに関しては、1700 年代、1800 年代、1900 年代とか、どういったことがテクノロジーとして進んできたのかと。技術の進歩を表すということに関しては、こういったところの配慮はすごく開隆堂出版はよくできていまして、コンピューターの情報処理のところについては、開隆堂出版のほうはリンクという形を用いて、セキュリティーモラルとリンクと一つずつ印がついていることが、情報処理に関しては非常に丁寧な扱いをしているのではないかなと。情報のところに関しては、開隆堂出版のほううまく仕上げていると思います。

最後に、東京書籍には防災手帳というのが付いていて、便利かなというふうに感じておりました。それと一番最後の技術の歴史という裏表紙の総まとめも良いと思いました。東京書籍と開隆堂出版については甲乙つけがたいところがありましたけれども、そういった点で、僅差で東京書籍のほうを選ばせていただきました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございました。

田中委員、お願いいたします。

田中委員

私は開隆堂出版を推したいなというふうに感じています。開隆堂出版の最初のページを開くと「扉を開こう」という、これは東京書籍にもあるのですけれども、東京書籍は未来志向が強くて、開隆堂出版のほうは日本の鍛冶職人の技術といったものを通じて過去から現在、未来という、そういうつながりがこの教科書の中に表れていて、これは大事なことかなというふうに思いました。

それから、作物の栽培のところでは稲が両方出ているのですけれども、開隆堂出版は 161 ページ、東京書籍は 174 ページに出ているのですけれども、東京書籍のほうはサイズも大

きいですし、情報量としても非常に多く、写真もリアルでいいのですけれども、一方、開隆堂出版のほうは1ページにコンパクトにまとまっていて情報量はやや少ないのですけれども、生徒にとってわかりやすいまとめ方かなというふうに思います。特に上のほうのグラフで茎や葉の伸びが赤いグラフで示されているのも生徒たちにとって、こういうところもなかなか細かい配慮かなというふうに思いました。

あと先ほどからほかの委員もおっしゃっていましたが、情報モラルについてが圧倒的に開隆堂出版が充実していて、インターネット依存というところまで踏み込んで記載があるというところで、これからも中学生がインターネットから離れて生活するということは無理だと思うので、インターネットを正しく使うという意味で、こういったことが充実している点も大きいかなと思いました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。私の意見を述べさせていただきます。

教育図書については、扱っている中身はそれぞれ押さえているところは押さえていると思うのですけれども、全体的に色彩が薄くてちょっと暗めの感じかなというふうに思って、なかなか子どもたちが親しみを持ってないのではないかなというふうに思いました。

東京書籍のほうは皆さんからもご意見がありましたように大判ですし、情報量も非常に多いのですけれども、技術というのが1年生で週1時間、2年、3年になると1年間で17.5時間ということでもっとも少ない時数の中でこれだけのものを扱っていくのが、教師も子どもたちもなかなか扱い切れるのかなというふうなことを思いまして、開隆堂出版のほうで、情報がコンパクトにまとまっているのでバランスがよいのではないかなというふうに思いました。

それ以外に情報のところは、それぞれの委員がおっしゃったように開隆堂出版がやはり優れているのではないかということ、それから関連する事項を示すページの表示があってスパイラルで学習していくのも開隆堂出版のほうで学習しやすいのではないかなというふうに思いましたので、開隆堂出版を推したいと思います。

委員皆さんからご意見をいただきました。全体的に判断しまして開隆堂出版の声が多かったというふうに思いますが、技術については開隆堂出版を採択候補とすることにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、技術については開隆堂出版を採択候補とすることに決定しました。

それでは、家庭について協議を行います。

まず、渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

家庭分野におきましても、開隆堂出版と東京書籍がこの3者の中ではいいのではないかと思います。

まず開隆堂出版では77ページ、そして東京書籍37ページを見ていただくと、食品群の違いというのが出ています。東京書籍は、目量り、手量りというような形、目分量と言ったほうがわかりやすいのかもしれないですけれども、実際どれぐらいの量がというような表現をしているのに対して、開隆堂出版は、一つ当たりのグラム数が書いてあります。

こちらの違いは、医療の現場での食事療法とか、そういった栄養指導という形で使ってみると、手量りはちょっと使いにくい。ただ、目安として使いやすいのかなというふうな気はします。

開隆堂出版は、72ページを見ていただくと、左側にたんぱく質、無機質、ビタミン、炭水化物の説明がついているのですね。これは非常にわかりやすい形で食品分類を表していると思います。

東京書籍は、食べ物の保存のところ、開隆堂出版だと88ページ、東京書籍ですと46ページの加工食品の表示のことについて見ると、これはとても重要なことで、この辺りの説明は東京書籍のほうがとてもわかりやすく書かれています。現実に沿った技術とか能力という点では、この点はすごくしっかりしているなど。

そして次にページをめくって、東京書籍だと48ページ、開隆堂出版だと90ページですけれども、食中毒の防止と食品の保存の仕方ということが書いてあります。これも食品を扱う以上非常に重要なポイントになるわけですけれども、そういう点で非常にわかりやすく、食品の保存の仕方、食中毒の考え方という形で見ますと、東京書籍が非常にわかりやすく書かれているなど。

そして今度はちょっと単元を変えて、東京書籍では182ページ、開隆堂出版だと20ページになるのですけれども、成長の振り返りというふうな内容が出ています。幼児の生活とか心の成長というところを見ていきますと、東京書籍は、写真と成長の絵が描いてあるこ

とでわかりやすく書いています。

次にページをめくって行って「体の発達について考えよう」というところですが、この辺りも心の発達について見ますと、東京書籍は 188 ページ、そして開隆堂出版は 26 ページになるのですけれども、東京書籍のほうが非常に成長について丁寧に解説されていると思います。

東京書籍のほうが、サイズが大きい分やはり書面に余裕があって内容が多くなる部分がありまして、今後将来的にこの教科書を持っていて役に立つのではないかと、そういう観点も含めると、東京書籍のほうが開隆堂出版よりもやや使いやすいというか、いいのではないかと、いうふうに私は感じました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございました。

田中委員、お願いいたします。

田中委員

私は最初、食育について注目して見てみました。「食事の役割について考える」というところなのですけれども、これを見ると開隆堂出版は 62 ページ、それから東京書籍だと 22 ページ、23 ページ、それから教育図書だと 70 ページになるのですけれども、食育のところは食べ物の伝統とか、それから地産地消的なことからカロリー、いろいろなことが出てくるのですけれども、食育の最後のどうやって食べるかというところはあまり触れていなくて、これはちょっと残念だったなというふうに思っています。

ただ、その中で食事の役割として体をつくるとか触れ合いの場になるとか、そういったところについてそれぞれ触れていていいなと思ったのですけれども、開隆堂出版はここで宇宙飛行士の野口さんに宇宙食のことを聞いたり、あと生物学者の福岡さんに聞いたり、どちらかというと、食べることが健康のためにただ大事だよというのではなくて、こういう日常のいろいろなところから食べることの役割を考えてみようというスタンスで、食べることはそもそも仕事ではないわけなので、こういうふうな捉え方がいいかなというふうに思いました。

それから、今の中学生は、多分小さい子どもと一緒に生活する機会が少ないと思います。子どもの成長をたどるところを見ても、これも開隆堂出版が、例えば 24 ページ、25 ページ辺りに非常にうまくまとまっていて、幼児の体の発達については、ほかと比べて

みると非常にシンプルですけれども、わかりやすくまとまっているかなというふうに思いました。

それと開隆堂出版は最後の実習のところでふれあい実習というのがあって、中学生が保育園に行って小さい子どもたちと一緒に遊んだり世話をしたりという実習をして、そのことについて丁寧に記載があったところもよかったかなと思います。

以上のことから、私は開隆堂出版が、中野の中学生にとっては学びやすい教科書かなというふうに思います。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

小林委員。

小林委員

3者ですが、私は全体的な構成で比較してみると、教育図書については内容的に他の2者に比べると取り上げている数も少なかったりと内容的にもう一歩かなという状況がございます。

したがって、東京書籍と開隆堂出版の二つなのですが、それぞれ特徴があって、今の教育課題に正対する、家庭科の学習を通して言語活動を取り上げているという箇所は圧倒的に開隆堂出版が多くなっています。

しかし一方で、環境に配慮した事項に関しては東京書籍が非常に多くなっている。

ただ、安全、衛生に関しては、いろいろな捉え方がありますので、細かく見るとやはり一長一短があるのでしょうかけれども、取り上げている数からすると両者互角というような状況があります。全体的に開隆堂出版は食育に非常に力が入っているかなということが私として印象があります。

一方、東京書籍は、子育ても含めての様々な生活習慣とか、そういうものも充実しているということで、どちらも甲乙つけがたいという状況が私の結論であります。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。私からも意見を述べさせていただきます。

三者の特徴については、先ほど技術の分野でお話ししたような特徴があるというふうに判断しまして、やはり東京書籍か開隆堂出版というふうに思いました。

東京書籍については、情報量が本当に技術と同じで多いので、やはり全体の授業時数からしてなかなか扱いにくいのかなという印象です。

それで開隆堂出版については皆さんからも特徴のお話がありましたけれども、巻末のところで「安全と防災」という項目があって、巻末についているのですけれども、「家族・地域で取り組む防災対策」というところで避難場所について家族で話し合おうということのほかにも「中学生も地域防災の担い手」という説明があります。この辺は中野区でも中学生の防災訓練とか防災教育に力を入れているというようなことがありますので、中野の子どもたちにとっては親しみやすい内容になっているのかなというふうに思いました。

それから開隆堂出版の一番最後の扉をあけたところですが、それでも、「未来に向かって」ということで、これから高校生になるに当たっていろいろな職業の選択があるのだよということ自分で自分たちの将来を考えていく、そうしたきっかけになればいいなという背中を押すような取組があつてなかなかいいのかなというふうに思いました。

以上のことから、開隆堂出版を推したいなというふうに思います。

各委員のご意見を伺ったところですが、全体的に開隆堂出版というご意見が多数でしたので、家庭については開隆堂出版を採択候補にしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田辺教育長

ご異議ございませんので、家庭については開隆堂出版を採択候補とすることに決定しました。

それでは、次に英語について協議を行います。

まず、田中委員、お願いいたします。

田中委員

全部で6者からの選択ということで、教科書サイズが学校図書だけが少し小さ目ではか大きいサイズなので、英語は少し横へ広がる傾向があるので、大きいサイズのほうがゆったりしていて書き込んだりしやすく、見やすいのかなということを感じました。あと全体的な構成を含めて、東京書籍と開隆堂出版の二つがいいかなというふうに思いました。

東京書籍は左側に会話の例があつて開隆堂出版は右のほうに会話が出ているのですけれども、これはいろいろ意見はあると思うのですけれども、私は单元ごとに左側に会話があつ

て右側にその中の学ぶべきことが出ているような、その並びのほう学びやすいかなというふうな感じがしました。

それから、英語の教科書なのですからけれども日本文化に触れているという意味で比べてみると、開隆堂出版のほう少し触れ方がいいかなというふうに思いました。

あとユニットごとに目標が明示されている、例えば開隆堂出版の 44 ページを開いてみると「自分のことを話そう」とか、そこまで学んできたことを使って何か次のステップに進もうという、そういうまとめ方があって、これも生徒にとっては、あるところまで一度きちんと知識を整理して次のステップへ進むという意味でわかりやすいのかなというふうに思いました。以上の点から私は開隆堂出版を推したいなと思いました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

小林委員、お願いします。

小林委員

まず全体的な構成の部分ですが、今、小学校に外国語活動が入ってきてコミュニケーション能力を高めようと。そのつながりとして中学校の英語科がどうあるべきかということが議論されていると思うのですけれども、小学校のときの活動的な学習にプラスして従来の、聞く、話す、読むの技能をしっかりと活用できる力を身に付けるという、ベーシックな構成を強くしている東京書籍と開隆堂出版と学校図書の3者が、非常にこういった全体の構成のバランスとしてはしっかりしているという状況です。

最初この3者で検討をと思ったのですが、内容的にいろいろ見ていきますと、開隆堂出版と、それから現在使っている学校図書、この二つに絞って考えてはどうかなという考えに至っております。区の調査研究の中でも学校図書に関しては、構成上ほかの会社とも違う、この3年間、学校図書については使ってきているという流れも重視していく必要はあるのかな。その流れを変えるだけの意義づけとか、そういう点はどうなのかなと。

そういうところを考えると、開隆堂出版の良さというのは全体的に英語の分量は非常に多く取り扱っているということですね。その辺は、もちろん絞って学ばせるということも大事かもしれませんが、全体的なボリュームがあるというものは非常に重要なポイントかなというふうに思いました。

したがって、現行の流れを重視する学校図書なのか、それとも先ほど田中委員もお話し

された紙面もゆったりとした、そして内容的に非常に質量のある開隆堂出版か、この辺りのところで少し検討を深めてはいかがかなというふうに思っています。

田辺教育長

ありがとうございます。

渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

東京書籍のニューホライズン、三省堂のニュークラウン、そして学校図書のトータルイングリッシュ、この6者の中ではこの三つが教科書としてはうまくでき上がっているなどというふうに感じました。

まず細かいところを見ていきますと、大きさという点については大差ないというふうに考えまして、最初のページを開いたときに「こんにちは」というのと「サンキュー」という言葉でこの3者については書かれていました。

実際に「ありがとう」という言葉とか「こんにちは」という言葉を覚えるのであれば、一番多く使われているところでやるべきかなということで、そういう点ではトータルイングリッシュとニューホライズンが、先進5か国語と中国と北朝鮮、韓国、そしてロシア語というほうがいいのではないかなというふうに思います。

特にニューホライズンに関しては非常にわかりやすく、いいのではないかなというふうに感じました。やはり英語とか外国語を覚えるに当たっては、導入として興味を持てる内容が必要なのではないかなというふうに思いました。

それぞれの導入を見ると、この中で一番親切で英語に親しみやすい入り方をしているのは、ニューホライズンというふうに思います。そして、非常に単語の書き方等丁寧にできているふうに感じました。

トータルイングリッシュはいきなり入っていくには若干難しいのではないかなと、ある程度英語を学んだことがある人を対象とした導入の仕方に関心しました。最初の導入に割かれている分量も、ニューホライズンとニュークラウンがよく取っているのかなというふうに感じました。

教科書の中で利用しやすいものとして情報を提供するという意味では、ニューホライズンはいろいろと、便利手帳ではないですけども1年生が入ったときには使いやすいような形が書いてあります。

そして単語の意味ということで、単語帳はどの教科書にも書いてあるのですけれども、

単語帳の後に基本文のまとめというような基本文型が書いてあるのがニューホライズンとニュークラウンなのですね。例えばニューホライズンだと 150 ページで、そしてニュークラウンだと 146 ページ。同じような文面があるのですがけれども、ニューホライズンでは習ったページがそこに示されていて振り返りが非常にしやすいようになっています。そういう意味では非常に英語を勉強していくに当たって、この教科書は使いやすいかなというふうに感じました。

1 年生の英語への導入という意味ではニューホライズンが一番親切で、また復習とか勉強していく上で非常に使いやすいのではないかなというふうに感じております。

今度は 3 年生の教科書で、やはり英語も一つの国語というような考え方で、こういった文章が載せられたのだろうということを見たときに、ニュークラウンとニューホライズンは 1 ページ目を開いた時点で、構成がわかるような形になっています。

ニューホライズンは、82 ページに「ストライヴィング・フォー・ア・ベター・ワールド」という「世界で活躍した人」というタイトルで、ノーベル平和賞のスーチーさんを題材にして書かれています。

また、「アーティスト・イン・アークティック」というところで、北極圏というようなテーマで美術のような非常にきれいな情景を描いていたり、90 ページには山中教授とか日本で活躍された方の一部の写真と名前を紹介したり、58 ページからある「トゥ・アワー・フューチャー・ジェネレーションズ」というところで東日本大震災にまつわるエピソードを取り上げていたり、平和とか災害についての内容というのが非常にニューホライズンはいいい題材を取り上げていると思います。

またユニット 1 では日本の文化が世界で活躍しているという紹介があり、日本の紹介、平和の問題、美しいもの、そして災害の問題というような形で取り上げられていて非常によろしいかなと。

いろいろなところを考えると題材の選択、そして英語の導入のしやすさ、そういったところから東京書籍のニューホライズンが、一番バランスのとれた教科書なのではないかなというふうに私は感じました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございました。私からも意見を述べさせていただきます。

英語について小学校でも外国語活動ということで学習が始められていて、小学校と中学

校の連携ということも考えていかなければいけないというふうに思っています。そういう意味ではトータルイングリッシュは一般動詞から始まるというようなことでは小学校の学習が前提となった構成になっているのかなというふうに思うのですけれども、一方で中野区の子どもたちの現状を見ますと、やはり英語についても学年進行に伴って学力調査などではなかなか思ったような成果が現れていないというような現状もありますので、なるべくスモールステップで進められるほうがいいのではないかなというふうに思いました。

そういう意味では私は東京書籍のニューホライズンと開隆堂出版のサンシャインが、子どもたちにとって導入がスムーズにいくのではないかなというふうに思っています。

開隆堂出版については、この教科書でどういうことを扱うよという内容が、全体が補完をされるようになっていて、その次に4ページのところで「この教科書で学ぶ皆さんへ」ということで、こういうふうに進めていくのだよというような流れになっていたり、それから、1年生の巻末のところの折り込みで「英語でできるようになったことリスト」というのがあって、ここまで自分ができるようになったというのが四半期ごと、3か月ごとに確認ができるような、そういうリストがついていたりということで、子どもたちが自分たちなりに進めていくに進めやすい教科書ではないかなというふうに思いました。

一方、ニューホライズンについては今、渡邊委員が詳しく説明をしていただきましたので、私も同感なところがあります。

ニューホライズンでいうと3年生の6ページのところに「タンギー爺さん」ということでゴッホの絵があって、美術の教科書との関連でもなかなか興味深い扱いをしているなどというふうに思いました、全体的に見ると東京書籍と開隆堂出版、どちらかということですが、どちらかというとも東京書籍が子どもたちにとっては学びやすいかなというふうに思っています。

それぞれの委員の方々から意見をいただきました。トータルイングリッシュについては小学校からのつながりということもあるのですが、なかなか導入のところではほかの教科書のほうがよいのではないかという意見が多かったように思いました。東京書籍のニューホライズンと開隆堂出版のサンシャインが候補に挙がりましたが、総合的に皆さんのご意見を聞かせていただいて、英語については開隆堂出版を採択候補にしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ありませんので、英語については開隆堂出版を採択候補にすることに決定しました。

それでは、特別支援学級で使用する教科書についての協議を進めます。

初めに、事務局から説明をお願いします。

指導室長

それでは、特別支援学級で使用する教科書につきましてご説明申し上げます。

特別支援学級で使用する教科用図書は、学校教育法附則第9条及び同施行規則第139条によりまして文部科学大臣の検定を経た教科書、一般的な検定教科書でございます。又は文部科学大臣が著作名義を有する教科書、こちらは星本と言われるものでございます。それ以外のもの、書店で入手できる、いわゆる「一般図書」を教科用図書として使用できるという規定でございます。

また、この一般図書を採択するに当たりまして、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則により当該特別支援学級を設置している区立学校の校長の意見を聴くものとされておりまして、これに基づいて各設置校が、この教科書を使いたいということを一覧表としてお配りしております。

1 ページ目には桃園小学校がそれぞれの種目、学年の使用で一覧にさせていただいております。続いて中野神明小学校、新井小学校、大和小学校、江原小学校、西中野小学校の6校分、中学校は第二中学校、第四中学校、第七中学校の3校分それぞれでございます。

また、この一般図書につきましては、選択の幅が広いことから都道府県単位で調査研究を行うことというふうになってございます。各学校は東京都教育委員会が作成した特別支援教育教科書調査研究資料等に基づき希望を上げている形になってございます。本日は前方の机に採択候補となっている図書の一部の一般図書を準備しておりますので、ごらんいただきたいと思います。

ご説明は以上でございます。

田辺教育長

それでは各委員から質問等ご発言がありましたらお願いいたします。

小林委員

確認なのですが、東京都教育委員会が作成した一覧表のリストから選択しているということよろしいわけですね。

指導室長

一般図書ですので、書店で販売されている図書も可能ですが、調査研究がしっかりとなされている東京都教育委員会の調査資料に基づいて本区では採択候補として上げてございます。

田辺教育長

ほかにございますか。

渡邊委員

ちょっと気になった点がありまして、例えば桃園小学校の1年生の国語は光村図書出版の検定教科書、図画工作は開隆堂出版の検定教科書、1年生から6年生まで全部で検定教科書を使用するというふうに書いてあるのですけれども、これは現在、小学校で採択されている教科書と同じものと思ってよろしいのでしょうか。

指導室長

委員のおっしゃるとおりでございます。昨年度採択いたしました検定用教科用図書を使用しております。

田辺教育長

ほかにございますか。

それでは特別支援学級で使用する教科書等については、資料に記載の教科書を採択候補とすることでご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、特別支援学級で使用する教科用図書については資料に記載の教科書を採択候補とすることに決定しました。

それでは、本日の協議はこれまでにしたいと思います。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして教育委員会第6回臨時会を閉じます。

午後8時46分閉会